

「原発は安全」という前提崩れ、根底からの見直し必要 原子力災害対策についての私の質問に村山市長が答弁

6月議会の一般質問で私は、長野県北部地震、原子力災害対策、地域事業費制度見直し問題を取り上げました。

被災者生活支援制度の拡充求めよ

長野県北部地震では、被災者生活支援制度の拡充を国に働きかけることを求めました。というのは、上越市大島区などで全壊2、大規模半壊2、半壊15という被害が出ているにもかかわらず、上越市のような人口規模となると、全壊が10以上でないという適用外ということになっているからです。大島区に言え、合併前の大島村なら適用されていた（適用基準は全壊2）ことを考えると、このままというわけにはいきません。それに全壊の世帯で最高300万円、一部損壊、店舗などは対象外というのも現実には合わないものです。市長は、「被災世帯数を基に法の適用が決まる現行制度のあり方は課題も多い。このたび県がとられた措置（公



平性確保の観点から県独自に法適用と同等の支援をする）のような被災者支援制度の弾力的運用の必要性などについて、市長会等も通じて、国に働きかけたい」と答弁しました。

原発問題。市長は、私の質問に答えて、「『原発は安全』という前提が崩れ、『制御安全』により成り立ってきた原子力発電所の存立基盤が大きく揺らぎ、根底からの見直しが必要な状況となっている」とのべました。

柏崎刈羽原発に1万3160体の使用済み核燃料

私は、再質問で、使用済み核燃料が全国で5万9000体、1万3530トン（このうち、柏崎刈羽原発だけで1万3160体）にも上っていることなどを紹介し、「いまの原発は本質的に未完成の技術だ。期間を定め、原発からの撤退を求めていく必要がある。少なくとも原発の新増設に反対を」と訴えました。

市長は、「当面言えることは、休止しているもの、これから点検に入るもの、確実に安全が確保されるまでは再開するということとは私たちの心情にそぐわない」と答えました。

地域事業費制度の見直し問題で、合併前上越市の区域で来年にも枠配分を超える見通しとなったことなどから、市長は見直し案を示していますが、こうした事態となった要因と責任を明確にすることが大事です。責任について市長は、「これまでの経緯等について、議会や市民の皆さんに詳（つまび）らかに説明し、課題解決に向けて、真摯に議論を重ねることが大切と考え、制度の見直しを提起してきたものであり、このことこそが、『私の責任を果たす』ことだ」とのべました。

地域事業費制度は合併時の約束事。守れなくなったら、まず謝るのが行政のトップのあり方ですが、今回も謝罪はなし。見直し案を採用するかどうかは最終的には議会で判断すべきです。今議会での議論を聞き、「最終的には市長の政治決断」という答弁に疑問を感じました。

上越市の安定ヨウ素剤保管場所一覧（平成21年3月現在）

保管場所	保管数	
	ヨウ化カリウム(丸) (錠)	ヨウ化カリウム(粉) (本:1本25g)
休日・夜間診療所 (合併前上越市2分の1。名立区)	50,000	9
上越地域医療センター病院 (合併前上越市2分の1。中郷区、板倉区)	53,000	9
安塚診療所 (安塚区)	2,000	1
浦川原区総合事務所 (浦川原区・三和区)	7,000	2
大島診療所 (大島区)	1,000	1
牧診療所 (牧区・清里区)	4,000	2
くろかわ診療所 (柿崎区)	7,000	1
大潟区総合事務所 (大潟区)	7,000	1
頸城区総合事務所 (頸城区)	7,000	2
吉川診療所 (吉川区)	3,000	1

東京電力福島第一原発の報道があるたびに気になるのは、避難区域で牛を飼っている農家の人たちのことです。乳を搾っても出荷できない。牛たちを避難させることもできない。それゆえに、やむなく処分する。その切なさはいかばかりか。

私も三十数年、牛を飼ってきました。そのなかで一度だけ、牛たちを避難させたことがあります。その日は、いまから六年前の六月二十八日、吉川区に戦後最大の洪水をもたらした日です。

前日から降り始めた雨は早朝から雨脚が強くなって、川谷観測所では二八日午前〇時から一七時まで三三〇ミリを記録しました。国田、東田中で吉川の堤防が決壊、私の住んでいる代石では越水しました。区内のあちこちで冠水、土砂崩れなどによる道路の交通止めが相次ぎ、一時は孤立した集落もありました。

この豪雨では、わが家でも被害が出ました。わが家は床下浸水、牛舎および管理舎は水浸しになったのです。ちょうど木浦市長（当時）とともに総合事務所で打合せをしていた時に、家から電話があり、牛舎に水が流れ込んだとの情報が入りました。時間をもらって牛舎に急行すると、信じられない光景が目に見え込んできました。

牛舎の中に濁流がどどん流れ込み、水位が上昇しています。牛たちは全頭立って心配そうな目をしていました。牛の足元の水は五〇センチはあったかと思えます。それに、牛舎内には濁流とともに鉄板、畳、その他、いろんなゴミが次々と入ってきていたのです。

このままでは牛たちが危ない、そう思った私は、家畜商と連絡を取って牛たちを頸城区に避難させることにしました。

牛を運ぶ車はまもなくやってきて、牛を一頭ずつ牛舎から連れ出し、乗せました。ところが一頭だけ、牛舎の中から出ようとしない牛がいたので。母牛の乳を飲まなため、父がヨーグルトを与え、育てていた仔牛です。父を自分の母親だと勘違いしていたのでしょうか、父の姿が見えない中で、牛舎からなかなか出ようとしないのです。引っ張ったり、体を撫でたりして仔牛を外に出すまでに要した時間は、正確に測ったわけではありませんが、一〇分はかかったように思います。

濁流は牛舎内から牛舎脇の市道へとどどん進み、市道の姿も水で見えなくなってきました。水位が次第に高くなる中で、最後は家畜商と私が二人がかりで水の中を歩かせました。正確に言えば、ムリヤリひきずり、動かしたのです。

わが家の牛たちは、頸城区の家畜商の牛舎で一〇日間避難させてもらいました。水は数時間でひきましたが、問題は牛舎内に入り込んだゴミや泥の始末でした。特に汚泥は半端な量ではありません。これらを片付けられない限り、牛たちを飼うことができませんでした。とてもわが家の人間だけで片付けるのは無理でした。

有難かったのは、水害が発生した翌日から、牛飼いの仲間や日本共産党の仲間などが次々と応援に駆けつけてくれたことです。その中には、初めてスコップを持つ人がいました。夫婦で何日も来てくださった方もありました。しかも、手伝いに来てくれた皆さんの昼食用にと手作りの弁当まで用意して……。

福島さんの牛飼いの人たちのことがテレビに出るたびに思います。わが家の時よりも何倍も大変な、この人たちの所に温かい支援の手は差し伸べられているだろうか。

住宅リフォーム促進事業、市長が追加補正を示唆

わずか2日間で今年度の予算枠を突破した住宅リフォーム促進事業。上野公悦議員の「早期に追加を」との質問に、村山市長は、「本事業の実施効果などを見極めながら、一定範囲の中で実施すべきものではないか。国の第2次補正予算において、住宅改修に新たなポイント制度が検討されているとの情報もある。そうした動向なども踏まえながら判断してまいりたい」と答えました。宮崎政國議員もこの事業で質問していましたが、近々、行政側に動きが出そうな感じがしました。



上野議員いまひとつの質問は津波対策です。大きな写真パネルを5枚持ち込んだの質問は、岩手県出身の彼ならではの重みと迫力がありました。被災地についての説明では、私のルポ、「被災地に鯉のぼりたなびく」も参考にしてくれたことがわかりました。東日本大震災の被災地を2回にわたって訪れ、そこで学んだ

ことをもとにハザードマップの見直し、避難ビルの設置などを訴えた質問は、必ず市政に活かされると思います。

上越市消防団吉川方面隊が演習

上越市消防団吉川方面隊の演習が19日、吉川中学校グラウンドで行われました。

演習の開始にあたっての挨拶の中で大滝健彦吉川方面隊長は、「日頃の訓練の成果を発表するとともに、来月3日の市長点検の度胸も身に付けて欲しい。3月11日の東日本大震災、12日の長野県北部地震を経験したいま、災害は（必ず）やってくるものと認識し、住民のみなさんと一致団結して住民の命と財産を守っていくことが大切」と訴えました。



機械器具の点検で注目したのは最新型の消防車です。今春、吉川方面隊に配置された車は3台。2900ccの四輪駆動車で、冷暖房が完備していて力もあります。この消防車は合併直前の2004年に配置された小型四輪駆動車がよりも、さらに性能が向上しているということでした。